

▼刊行の辞

本書は、在日朝鮮人発行の文化・文学関連の同人誌、サークル誌、機関誌等を収録した資料集である。第I部(1・2巻)は、GHQ／SCAP占領期の日本で発行された雑誌、在日キリスト教団体の機関誌、一九五〇年代に在日青年が発行した雑誌等で構成されている。第II部(補巻)は、在日朝鮮文学会と、その後継団体の在日朝鮮文学芸術家同盟が発行した資料のうち、これまで刊行した関連資料集から漏れたものを補つた。

すでに、緑蔭書房からは『在日朝鮮女性作品集 一九四五～一九八四』(叢書9)、『在日朝鮮人文学資料集 一九五四～一九七〇』(叢書14)、『在日朝鮮文学会関係資料 一九四五～一九六〇』(叢書17)が刊行されている。本書は、これらに続く第四集目の在日朝鮮人文化、文学関連資料集となる。各資料集が扱う時期を大まかにみると、【叢書9】は一九四〇年代後半、【叢書17】は一九六〇年代広く網羅しており、【叢書14】は一九四〇年代後半、【叢書17】は一九六〇年代の資料が中心となっている。本書の第I部に収めたのは、主として一九五〇年代に発行された資料である。青年たちの作品が大部分を占めている。既刊資料集と同じく、これらの作品の底流には冷戦下での脱植民地化、日本語で書くのか朝鮮語で書くのか、南北朝鮮や日本の文学界との接続と断絶、世代間葛藤といったテーマがある。

朝鮮戦争勃発で始まった一九五〇年代には、在日朝鮮人社会内での南北対立、日本共産党とその周辺の日本人たちとの連帯とそれ違い、朝鮮民主主義人民共和国と直結した在日本朝鮮人総聯合会の結成などが起きた。そうした動きの中で、人の流れの停滞と移動が、入り混じりながら進行していた。第二次世界大戦後に再画定された国境が、在日朝鮮人たちの日本の外への移動を極めて困難にしていくと同時に、密航、亡命、朝鮮民主主義人民共和国への「帰国」といった様々な形でそれらの国境を越える朝鮮人たちが生まれたのである。

このような時代条件の中で、朝鮮青年たちは何を思考し、どのような未来を描いたのか。彼女や彼らにとつての「日本」とは何だったのか。本書からは、

日本に根づいた、あるいは日本を仮の宿とした、当時の朝鮮青年たちの思考の軌跡を辿ることができるだろう。

▼収録資料

(抜粋)

第I部 統 在日朝鮮人文学資料 一九四六～六〇

- 一 「無窮花」朝鮮建国促進青年同盟福知山支部文化部
第一号 一九四六年七月
入山雄夫 「社会 肇國二千六百年」
- 二 「十字架」朝鮮基督教東京教會青年会
第七号・第八号 一九四七年四月・六月
朴珍都 「日本の朝鮮経済侵略について」
姜舜 「茶畠」「帰路」(詩)
「詩篇의精神、偉大한信賴」(眞明淑遺稿)
「绝望의가승리의가」(説教)
- 三 「新朝鮮」朝鮮文化研究会連合
第四号 一九五二年一〇月
特集 「総選挙と在日朝鮮人問題を語る」(座談会)
李相浩 「在日朝鮮人問題の本質」
- 四 「アンジェエルス」在日韓国力トリック学生会
クリスマス合併号、第一三・一四合併号、第一五号 一九五三年二月、五四年二月・六月
韓光子 「乙女の冬」(詩)
金寿煥 「正しい学生運動の在り方」
姜舜 「神の岸辺」(詩)
金承浩 「新世代と世界觀」
- 五 「白頭山」白頭山同人会 一九五三年四月
白東葉 「新しい民族意識について」(座談会)
- 六 「荒波」福岡県朝鮮人文芸同好会
第一号 一九五四年四月
李樹 「少女と税務署のリヤカー」(小説)
八 「大同江」大同江文学団
復刊第一号 一九五九年五月
金徳憲 「春香伝」について
朴秀鴻 「立秋」(小説)
- 申甲洙 「ためらうことなく祖国へ」(隨想)
林史植 「傍観者」(小説)
- 九 「青丘」(続)東海朝鮮文化協会内、青丘編集委員会／青丘文学会
第二号～第五号 一九五五年四月・一二月、五六六年三月、五七年八月
張徹 「在日朝鮮人運動の転換の理論的基礎を何处におくべきか」
朴秀鴻 「朝鮮のボプラ」(小説)
金樹領 「死神廢業」(詩劇)
- 卞宰沫 「朝鮮詩選」を読む
金美子 「おもい」(詩)

第2巻

全世峯 「戦う村の人々」

第一号 一九五五年二月

一〇 「新脈」新脈同人会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一一 「창조(創造)」創造同人 一九五五年七月

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一二 「信太山」信太山詩の会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一三 「문화창조(文学創造)」文学創造同人会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一四 「물, 걸(ムルキヨル)」文学サークルムルキヨル

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一五 「조선문예(朝鮮文芸)」朝鮮語版 朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一六 「조선문예(朝鮮文芸)」朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一七 「朝鮮文藝」朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一八 「文学報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

一九 「조선문예(朝鮮文芸)」朝鮮語版 朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二〇 「朝鮮文藝」朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二一 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二二 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二三 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二四 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二五 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二六 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二七 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二八 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二九 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三〇 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

本書は、在日朝鮮人発行の文化・文学関連の同人誌、サークル誌、機関誌等が発行された雑誌等で構成されている。第II部(補巻)は、在日朝鮮文学会と、その後継団体の在日朝鮮文学芸術家同盟が発行した資料のうち、これまで刊行した関連資料集から漏れたものを補つた。

すでに、緑蔭書房からは『在日朝鮮女性作品集 一九四五～一九八四』(叢書9)、『在日朝鮮人文学資料集 一九五四～一九七〇』(叢書14)、『在日朝鮮文学会関係資料 一九四五～一九六〇』(叢書17)が刊行されている。本書は、これらに続く第四集目の在日朝鮮人文化、文学関連資料集となる。各資料集が扱う時期を大まかにみると、【叢書9】は一九四〇年代後半、【叢書17】は一九六〇年代広く網羅しており、【叢書14】は一九四〇年代後半、【叢書17】は一九六〇年代の資料が中心となっている。本書の第I部に収めたのは、主として一九五〇年代に発行された資料である。既刊資料集と同じく、これらの作品の底流には冷戦下での脱植民地化、日本語で書くのか朝鮮語で書くのか、南北朝鮮や日本の文学界との接続と断絶、世代間葛藤といったテーマがある。

朝鮮戦争勃発で始まった一九五〇年代には、在日朝鮮人社会内での南北対立、日本共産党とその周辺の日本人たちとの連帯とそれ違い、朝鮮民主主義人民共和国と直結した在日本朝鮮人総聯合会の結成などが起きた。そうした動きの中で、人の流れの停滞と移動が、入り混じりながら進行していた。第二次世界大戦後に再画定された国境が、在日朝鮮人たちの日本の外への移動を極めて困難にしていくと同時に、密航、亡命、朝鮮民主主義人民共和国への「帰国」といった様々な形でそれらの国境を越える朝鮮人たちが生まれたのである。

このような時代条件の中で、朝鮮青年たちは何を思考し、どのような未来を描いたのか。彼女や彼らにとつての「日本」とは何だったのか。本書からは、

日本に根づいた、あるいは日本を仮の宿とした、当時の朝鮮青年たちの思考の軌跡を辿ることができるだろう。

補巻

第一号・第二号 一九五八年九月・五九年四月頃

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二四 「물, 걸(ムルキヨル)」文学サークルムルキヨル

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二五 「조선문예(朝鮮文芸)」朝鮮語版 朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二六 「조선문예(朝鮮文芸)」朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二七 「朝鮮文藝」朝鮮文藝社

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二八 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

二九 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三〇 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三一 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三二 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三三 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三四 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三五 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三六 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三七 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」

三八 「文學報」在日本朝鮮文学会

創刊号

全世峯 「戦う村の人々」